

平和教育のヒントが見つかる

教員のための博物館の日



参加無料

in ピースあいち

戦争・平和の資料館
ピースあいち

15年間続いたアジア・太平洋戦争が終わって81年。ピースあいちは、戦争の記憶を次世代へつなぐため、戦争の実相と平和を伝えています。一年に一度の本イベントでは、戦争体験語り手のお話、実践報告や展示のガイドを通じて、教育に携わる方々へ平和教育の参考となる情報をご提供させていただきます。貴重な機会となりますので、ぜひお申込み、ご参加をお願いいたします。

2026年8月20日(木)
13:30～15:30

プログラム

- ピースあいちの紹介
- 戦争体験語り手、語り継ぎ手のお話
- 常設展示のガイド
 - 「愛知県下の空襲」
 - 「命の壁」
 - 「戦争の全体像 15年戦争」
 - 「戦時下の暮らし」
 - 「現代の戦争と平和」
 - 「戦争と動物たち」
 - 「ゾウを守った東山動物園」
- 実践報告
 - 「戦争と平和を学ぶ中学生『ピースあいち』平和新聞を通して」
西田義弘さん（名古屋市立中学校教諭）
- 展示資料/所蔵資料など利用可能な資料の紹介
- 自由見学
- 交流



対象：全国の小・中・高等学校・大学の教員、教員志望の大学生、教育委員会等の教育機関の職員

定員：20名程度

<お問合せ・お申込みは下記へお電話ください>

戦争と平和の資料館 ピースあいち（主催）
電話：052-602-4222（11:00～16:00 日月休み）
〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台2丁目802
<https://peace-aichi.com/>

共催：国立科学博物館 公益財団法人博物館協会
「教員のための博物館の日」については
ここからご確認ください>>>

後援：文部科学省・愛知県教育委員会・
名古屋市教育委員会



昨年「教員のための博物館の日」



昨年2025年8月21日、国立科学博物館との共催により、ピースあいちで初となる「教員のための博物館の日」を開催しました。その時の語り手のお話と参加者の声をご紹介します。ご参加の判断材料としていただければと思います。

語り手のお話

戦争体験語り手の松下哲子さんが満州からの引き揚げ（1934年満州国生まれ、1946年日本に引き揚げるまで奉天（瀋陽市）で過ごす）のお話をされました。参加者からは戦争体験談を直接聞いたことが一番良かったとのことでした。

「熊本の農家に生まれた父親が満鉄に勤務。そこでは日本人だけ恵まれ、設備の良い社宅、国民学校で生活。しかし1944年の冬から暖房も入らない厳しい環境に。8月15日の玉音放送を聞いて母たちは泣いていましたが、自分は戦争に負けたことは信じられませんでした。その日、ピョンヤンでは一晩中花火が上がり、『マンセイ（万歳）』と現地の人が叫んでいました。35年にわたる植民地支配から解放された人たちの喜びの声を、悔しく聞きました。1946年8月31日夜、父の故郷熊本にたどり着くのですが、引き揚げの途中、亡くなった人たちを載せたターチョ（大車）を覆うアンペラ（むしろ）から、黒くなった遺体の手足を見ました。遺体は穴に埋められたそうです。その方たちはどこでどうなっているのでしょうか。なぜ、中国、東南アジアの多くの人がひどい目にあわなければいけなかったのか。なぜ日本が無謀な戦争を始めたのか…。自分の頭で考えることを、生徒さんたちに話してほしい」

参加者の声

参加者全員より「参加してとても良かった」とご回答いただきました。

戦争を経験した方からの直接のお話はとても貴重なことです。ありがとうございます。

満州のお話、満鉄や都市での生活のお話など初めて伺うことが多く、従来のピースあいちなどでは聞けなかった話とは違った感想を持つことができました。平和は感情ではなく、多くの知識をもとにした論理が必要です。勉強になりました。

展示物を見る時にどんな想像力を働かせて欲しいか、聞いて良かった。

貴重な資料について、直接触れさせていただけて良かったです。語り手の方のお話を直接聞いてよかったです。当時の状況の肌感を、当時者のお話できくことは、文章で読むのとは全く違いました。

実際に戦争を体験された方のお話というのは、近年段々と聞くことができなくなっているため、この機会に聞くことができとても貴重な経験となりました。また、満州の視点からのお話も珍しくとても良かったです。

他の教員の方々とお話を聞けた。また語り継ぎの方と当事者の方の話が聞いて良かったです。

ピースあいちの沿革、展示、方針を含め詳細に知ることができた。